



## ☆☆ニュースレター☆☆

第112号  
発行日:2013. 9. 25  
(since 2006.2.1)

このニュースレターはメールを登録している正会員および賛助会員ほか当団体が了承した希望者に、随時配信しております。配信中止を希望のかたは右記までご連絡ください。

NPO 法人・クライネスサービス

会長: 稲垣 正彦

発行責任者: 事務局長・眞柳 和俊

千葉県佐倉市宮ノ台3-2-2

npo-kleines-463@catv296.ne.jp

TEL/FAX: 043-463-1337

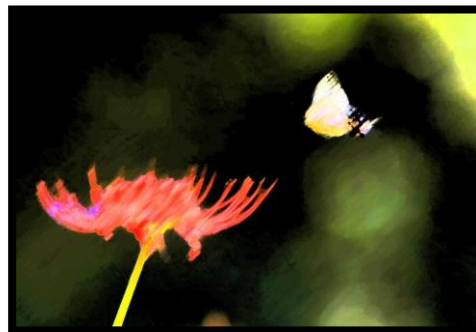
<http://www.catv296.ne.jp/~kleines/>

### ◎「合同パトロール」に参加

8月25日、このところ毎年開催されているユーカリが丘地区「合同パトロール」が実施され佐倉警察署のほか学校PTA、企業や各自治会(防犯担当)など18団体から118名(うち子供5人とクライネスサービスからは16名)が参加し、コースに分かれて街を歩きながら防犯の連帯を深めました。

### ◎「ちいき新聞」に掲載される

7月の取材を受けて、同紙佐倉西版8月23日号一面に『NPO法人クライネスサービス活動中』の見出しで、設立からの経緯や活動内容などが紹介されました。



### \*事務局から\*

- 10月から「夕(ゆうがた)パトロール」「夜間パトロール」の開始時間が変わります。ご注意ください。
- 10/3「赤い羽根募金」の集合場所は駅北口2階、10/27「ユーカリフェスタ」は南公園となります。
- 酷暑が続いた今年の夏、駅ペDESTリアンデッキ周辺、南ユーカリが丘、交番、本部周りに植えた花(マリーゴールド)には多くの会員に水遣りをお願いした結果、一部を除き元気な花が住民の目に留まったことと思います。重い水を運んで協力いただいた会員のみなさまお疲れさまでした。

### 会員寄稿 -28- 富士山登頂秘話 (大峽裕子)

おおはざまひろこ

今年6月世界文化遺産に登録された富士山に初めて登った会員からの寄稿です。登山経験者なら難儀の程とそれにも勝る喜びが理解できることでしょう。しかし、運悪く天気にも恵まれず『三度来る富士の登山は雨の中頂上に立ち何も見えざる』と詠んだ登山者もいます。寄稿者は好天気の中登山できたようです。



そもそも全く登山経験のない私が何故富士山に登ろうと思ったのかと申しますと…。2年前還暦を迎えるにあたり、何か記念になることに挑戦したいと思い、C旅行社の「富士山すそ野ぐるり一周ウォーク」ツアー企画にひとりで申し込みをしました。これは1年かけて富士のすそ野153kmを月に一度歩くというもので、最初のゴールが次のスタート地点となり12回かけて一周するものです。

昨年8月に無事完歩することが出来、1年間富士山を見て歩いたので次は頂上を極めるしかないと考えました。しかし、どうやって登ればいいのか、装備は? 体力は??と不安だらけで、すそ野一周で出来た仲間と「とにかく経験を積もう!」ということになり登山ガイド付きのツアーに参加。「山の歩き方・下り方」「ザックの選び方・つめ方」「登山中の呼吸法」「行動食の取り方」等々ごく基本的な事

から教わりながら低い山から徐々に登り始め、1年かけて3000m級へとレベルアップしていきました。それでも、日本一の高さを誇るお山に登ることには不安がいっぱいでした。

(以下次頁へ続く)

## 8月19日いよいよ吉田口から富士登山開始→8月20日下山

(以下時系列で説明します。)

12:30---霧のかかった5合目をスタート

18:30---8合目の山小屋に到着。夕食にカレーライスを食べる。

20:00 頃---翌日の準備をして寝袋に入るが、寝袋1枚の狭いスペースなので1時間も眠れず。

23:45---山小屋を出発し、ヘッドライトを連ねて歩くこと約5時間。

04:30---頂上に到着。4時40分ごろから辺りが少しずつ明るくなる。

04:58--- ついに御来光を拝む。



大勢の登山者が見守る中、晴れ渡った空に浮かぶ雲海の中から徐々現われてくる太陽には心が洗われる思いで、言うに言われぬ感動をもらいました。「来て良かった！」と実感。

今回は欲張ってさらに2時間半かけて噴火口の周りを歩くお鉢めぐりにも挑戦。「剣が峰」まで登り、これでもさらに「山頂」に到達だったのですが、ツアーの時間には制約

があり、「頂上久須志神社」でお札を頂くことも、「山頂郵便局」で購入した「登頂記念ハガキ」を出すことも出来なかったのが心残りでした。

ここまでは、地獄の下山が始まるとは知らず達成感でいっぱいでした。復路は火山石の土埃が舞い上がり、ズズーと足元を取られる道を4時間かけて下るのですが、睡眠不足と疲労でみんな黙して語らず我慢の連続。

何とか5合目まで下りてきたときには、土埃用のマスクとサングラスを取った顔は「笑える作り」で皆さんにお見せしたいくらいでした。下山直後は虚脱状態でしたが、帰りに立ち寄った河口湖の温泉では、埃を落として心身ともに生き返りました。仲間と無事の登頂を祝して乾杯した冷えたビール。普段はあまり飲めないのに、あの味は生涯忘れることはないでしょう。次回は出来たら別のルートから個人で仲間と登り、今回涙を飲んだ「お札を頂き」、「記念ハガキを山頂から出す」のを目標にまた行きたい！と強く思いました。(大峽記 9/20)



## ~閑話~

## 口ぐせ？

忘年会などの宴会につきもののカラオケで得意の喉を披露するS氏とM夫人。お二人の十八番は「二輪草」の替え歌「フリンソウ」。目を見つめあい、背中合わせをしながら情感こめた歌を何度も聞かされているOさんが、9月の清掃活動日に大きな声で『あのフリンソウはね、うまく育たなかったよ』と大きな声で私に話しかけてきたのです。Yさんからもらった信州の土産「九輪草」が正しいのについつい耳慣れた？言葉を発したようです。口癖には要注意。(K)

- いただいた そうめんだけが 残る秋
- 寝て練った 良い匂だったが 朝忘れ

(福島県からの投稿/NHK ラジオ-ぼやき川柳 9/21 放送)  
(第13回シルバー川柳入選作品)